

結 果 の 概 要

1 出生数は減少

出生数は97万6978人で、前年の100万5677人より2万8699人減少し、出生率（人口千対）は7.8で前年より低下した。合計特殊出生率は1.44で前年の1.45より低下した。（第1表）

母の年齢（5歳階級）別にみると、出生数は15～39歳の各階級及び50歳以上では前年より減少したが、14歳以下及び40～49歳の各階級では増加した。合計特殊出生率の内訳は34歳以下の各階級では前年より低下したが、35歳以上の各階級では上昇した。なお、30～34歳の階級が最も高くなっている。（第4表（1）、第5表（1））

出生順位別にみると、出生数はいずれの出生順位についても前年より減少した。合計特殊出生率の内訳では第1子は前年を下回ったが、第2子及び第3子以上は前年より上回った。（第4表（2）、第5表（2））

母の年齢（5歳階級）別と出生順位別を併せてみると、出生数は15～39歳の各階級ではいずれの出生順位も前年より減少したが、40～44歳の階級ではいずれの出生順位も前年より増加した。合計特殊出生率の内訳では29歳以下の各階級ではいずれの出生順位も前年より低下したが、40～44歳の階級ではいずれの出生順位も前年より上昇した。（第4表（3）、第5表（3））

2 死亡数は増加

死亡数は130万7748人で、前年の129万444人より1万7304人増加し、死亡率（人口千対）は10.5で前年の10.3より上昇した（第1表）。

死因別にみると、悪性新生物の死亡数は37万2986人（死亡総数の28.5%）で、死亡率（人口10万対）は298.3であり、前年に続き死因順位の第1位となった。なお、第2位は心疾患、第3位は肺炎となった。（第6表）

年齢調整死亡率（人口千対）は男4.8、女2.5で、男は前年の4.9より低下したが、女は前年と同率となった（第1表）。

3 自然増減数は減少

出生数と死亡数の差である自然増減数は△33万770人で、前年の△28万4767人より4万6003人減少し、自然増減率（人口千対）は△2.6で前年の△2.3より低下し、数・率ともに10年連続でマイナスかつ減少・低下となった（第1表、第2表－1、第2表－2）。

4 死産数は減少

死産数は2万934胎で、前年の2万2617胎より1683胎減少し、死産率（出産（出生＋死産）千対）は21.0で、前年の22.0より低下した（第1表）。

5 婚姻件数は減少

婚姻件数は62万531組で、前年の63万5156組より1万4625組減少し、婚姻率（人口千対）は5.0で前年の5.1より低下した（第1表）。

6 離婚件数は減少

離婚件数は21万6798組で、前年の22万6215組より9417組減少し、離婚率（人口千対）は1.73で前年の1.81より低下した（第1表）。